

第111回 訪問介護事業者連絡会議事録

日 時：平成29年10月12日(木) 19:00~20:30
場 所：福祉センター 地区社協活動室
出席者：藍原・神田・岸本・桜井・山川・渡
オブザーバー：樽井氏・宮本氏・砂川氏 書記：桜井

1) 高齢者いきいき課からのお知らせ・・・砂川氏

- ・ 世話人会の部屋は1月まで予約している。

2) 「へるぱあの部屋」更新状況について・・・神田

- ・ 第110回議事録が10/12アップ。

3) 9/26「茶の間」勉強会アンケート結果・反省・・・桜井

- ・ アンケート結果HPへアップ依頼をする。(※10/16アップ済み)
- ・ 参加人数も19名の小規模で、自由な意見交換ができた。
包括の方々もアンケートに回答してくださり、熱心に意見交換をされて良かった。
- ・ 今回限りではなく、継続して意見交換の場を提供していく事が世話人会として必要

4) その他

- ・ サービスAは値段が安いという認識がまだある。その認識はとても危険である。
- ・ 訪問の仕事が減少している。又訪問の仕事内容が変化している。
- ・ 小規模な事業所も数社で提携していく事も必要ではないか？
個々の事業所の特色ごとに提携していかなければ、単なる提携は難しい事柄が多くある。
- ・ 小規模事業所の経営が成り立たず、一度無くなると再興は難しいし、特に鎌倉市は小規模な事業所が多くあり、介護が成り立たなくなる可能性もある。
- ・ 事業所の経営形態も変化していく必要もある。
- ・ 定期巡回は、他の訪問看護などを使えないなどの不便な点もあるが、緊急時対応もできる事と、「帯」でケアに入るには、使い勝手がよい。小規模事業所は「帯」のケアはなかなか難しい事がある。
- ・ 事業所自体も変化する必要性に迫られているのではないか。
- ・ 生活支援の専門性は何なのか？自立支援とは何なのか？
- ・ これからの訪問介護の働き方を考えたり、話し合う機会を一緒につくっていくのも連絡会の仕事ではないのか。ただ愚痴だけを言い合う連絡会ではなく、市民への情報発信や事業者同士の連携、行政への意見発信等組織の再構築が今必要とされているのではないか？
- ・ 有資格者として、利用者へ対する時、自立支援に向けての意識や目を持つ事が、介護保険の生活支援の専門性ではないか？
- ・ 将来の高齢者は、食事や生活への拘りが変化していく。その為介護保険の生活援助は必要がなくなるのではないか。

- 市の研修の際に、「茶の間」のお知らせを配布したが、見ていない事業所が多くあった。今後、来場者に配布する際には、一言注意喚起をした方がよい。訪問介護連絡会の存在感が薄く、感心が少ない事も原因の一つではないか？

次回 第112回 世話人会 平成29年 11月 9日 木曜日

時間：19:00～20:30

場所：福祉センター 地区社協活動室

書記：山川・渡